



## JICA ベトナム事務所長 着任の挨拶

このたびベトナム事務所長に着任いたしました清水 暁（しみずあきら）です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で入国管理が厳しい中での入国、自主隔離や行動制限もありましたが、まずは無事着任できたことを感謝したいと思います。また、現在私たちが直面している未曾有の混乱と不安および恐怖から、一刻でも早く脱却できることを心より願っております。

私は、今から 10 年前の 2010 年 3 月より 4 年間、ベトナム事務所（ハノイ）に勤務しており、今回は二度目の勤務となります。

10 年前、初めて当地に降り立った時、行き交う人々のざわめきとバイクのクラクションに圧倒されるとともに、社会全体に「昨日より今日、今日より明日は必ず良い日になる」といった活気を強く感じました。その時感じたとおり、ベトナムは社会、経済をはじめ様々な局面で目覚ましい発展を遂げています。

JICA は、技術協力、有償資金協力、無償資金協力などの事業を通じ、ベトナムの開発と日本との関係強化に努めてまいりました。この先の持続的な発展のためにもインフラ整備への支援は引き続き重要であります。

### 【巻頭】

- ・ JICA ベトナム事務所長 着任の挨拶

### 【成長と競争力強化】

- ・ 「ホーチミン市都市鉄道 1 号線」工事現場を視察
- ・ コロナと共に生きる世界へーオンラインで国際学生交流

### 【脆弱性への対応】

- ・ 技術協力「新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト」成果普及オンラインセミナーを開催
- ・ 円借款「ハノイ市エンサ下水道整備事業」の起工式典を開催

### 目次

#### 【その他】

1	・ 2018 年度内部事後評価 ベトナム事務所が最優秀拠点として表彰！	4
2	・ Voice of expert (医療プロジェクト今井専門家) ～ベトナムの新型コロナウイルスを憂いている内に、自分が 隔離されてしまいました、の巻～	5
3	・ Voice of Volunteer OB/OG 日本政府観光局 (JNTO) ハノイ事務所所長 高橋 歩さん	7
4	・ ベトナム草の根技術協力事業のあれこれ JICA ベトナム事務所 草の根技術協力事業担当次長 小林龍太郎	8

日越の持続的な関係強化のための人材育成事業や地方自治体やNGOとの連携強化は不可欠です。また企業の方々の知見を活用した開発事業の展開も引き続き重要事項として取り組んでまいりたいと思います。そして、地方も含めていろいろな方と接点を持ち、前任の小中はじめ諸先輩が築いてきたベトナムとの良好な関係を、一層強固にすべく取り組んでまいりたいと思っています。

そのほか、私自身の体験を通じて、また一つ新たな発見をいたしました。

ベトナムはこれまで（2020年5月11日現在）新型コロナウイルスによる死者はゼロ、市中感染もうまく抑え込んでいます。行動制限がかけられている最中でも街中は平静さを保っているように見受けられました。この新しい脅威に対して、どのようにして対応したのだろうか、この人々の平静さはどこからくるのだろうかと思うとともに、この国の方々の底の知れない力強さを感じました。

私ども国際協力の現場では、お互いをパートナーとして位置づけ、開発を通じて日越の関係を構築することに力を入れておりました。今回の実体験から、私どもは今まで以上に相手の国から学ぶ姿勢を持ち、お互いが手を取りながら、新しいポストコロナの世界における課題に取り組む必要があるのではないかと感じるようになりました。

今はまだ我慢の時ではありますが、きっと再びダイナミックな社会の変化を後押しする業務に携われることを信じて任務に当たりたいと思います。

JICA ベトナム事務所長 清水 暁（しみず あきら）

※ 「2019年度の事業実績および2020年度上半期の取り組み」を6月1日に更新しました。詳細はリンクをご覧ください。  
<https://www.jica.go.jp/vietnam/office/information/event/ku57pq00000b1nfg-att/20200604.pdf>



成長と競争力強化

新型コロナ対策を講じつつ、工事を継続

## 「ホーチミン市都市鉄道1号線」工事現場を視察



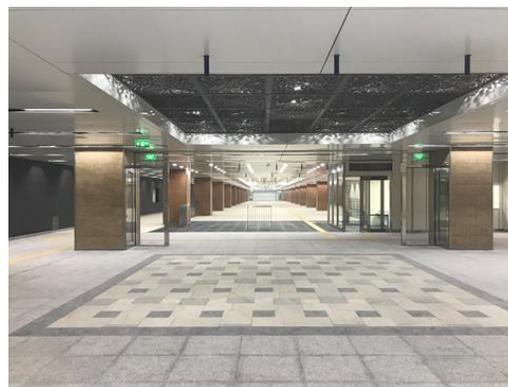
トンネル区間の視察

5月12日、JICAベトナム事務所の清水所長が、ホーチミン市を訪れ、円借款「ホーチミン市都市鉄道建設事業（ベンタインースオイティエン間（1号線））」\*の工事現場を視察しました。同事業では、コロナ禍の中でも、感染防止対策を講じつつ、細心の注意を払いながら全力を尽くして工事を継続してきました。

4月30日の南部開放記念日には、ホーチミン市都市鉄道1号線のオペラハウス駅がメディア公開されましたが、先んじて4月27日にホーチミン市人民委員長がサイトを視察し、社会隔離中でも企業が工事継続していることに感謝を述べるとともに、質の高い

工事を高く評価しました。

JICAは、これまでの現場関係者のご尽力に対し敬意を表すとともに、早期開業に向けて引き続き協力していきます。



地下鉄駅の様子

\* [https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2011\\_VN11-P7\\_1\\_s.pdf](https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2011_VN11-P7_1_s.pdf)

参考：技術協力「ホーチミン市都市鉄道規制機関及び運営会社能力強化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/051/outline/index.html>



## オンラインで国際学生交流



全員での発表を行っている様子（日越大学 会議室にて）

5月29日、新型コロナウイルス感染で日越国間での往来が困難な中、技術協力「日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト」\*の一環で、日越大学（ハノイ）と法政大学（東京）をオンラインで結んで、学生交流プログラムが行われました。

2015年からJICAが技術協力を行っている日越大学では、多くの大学と協力関係が築かれています。法政大学とは両大学の協力覚書に基づき、2017年からサマープログラムやインターンシップによる学生交流が行われてきました。従来の海外派遣プログラムの実施にかえて、学生の海外経験を充実させる一つの方法として、今回のオンライン学生交流プログラムが行われました。

両国から合計15名が参加し“Stay Home”期間中

の気づき等について、グループに分かれて意見交換を行いました。オンライン教育への移行や、生活にゆとりができたなどの共通点もある一方、日本では小麦粉等の品薄が目立っているなどの違いも発表されました。

今後は他の大学ともオンラインでの交流や学習を模索するほか、一回きりのイベントではなく数日間にわたる活動を実施される予定です。

ベトナムでは、現在も外国人の入国は厳しい状態となっていますが、その中でどのように工夫して、協力を進めていくか——JICAにとっても国際協力の「新常态」を考えるいい契機となりました。

\* 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト（2020年4月～2025年3月）

[https://www.jica.go.jp/press/2019/20200219\\_41.html](https://www.jica.go.jp/press/2019/20200219_41.html)

参考：日越大学修士課程設立プロジェクト（2015年4月～2020年3月）  
<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>



## 技術協力「新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト」成果普及オンラインセミナーを開催



セミナーの様子

5月7日、JICAは、4年間にわたり実施された技術協力「新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト」（2016年5月～2020年5月）\*の成果や経験共有を目的として、保健省と全国36省をオンライ

ンで接続してセミナーを開催し、総勢130名が参加しました。

ベトナムでは、看護師養成教育機関を卒業後、各医療機関で9カ月間の「臨床研修」を行うことが義務付けられていますが、標準化された臨床研修がなく、各医療機関にその内容や実施方法が任されており、看護師の質が一定でないことが課題となっていました。そのため本プロジェクトを通じ、ベトナムの新卒看護師の質の向上を目指し、保健省、ベトナム看護協会、看護大学等と「臨床研修制度」の開発を行ってきました。具体的には、研修教材の作成、研修指導者の育成、研修のモニタリングの仕組みづくりを実施しました。

現在、本プロジェクトで確立した研修制度を適用して2巡目の臨床研修がプロジェクト対象病院である、

国立バックマイ病院、ハノイ市立セントポール病院、及びプロジェクト対象4省（ビンフック、ディエンビエン、ビンディン、ドンナイ）で行われています。

今回のセミナーでは研修教材の紹介、対象4省からの経験共有とともに、研修制度の適用が、均質な能力を備えた看護師の養成に寄与しているという中間結果の成果発表等が行われました。参加した省からは多くの質問や意見が述べられ、関心の高さがうかがわれました。

プロジェクトで作成された研修教材は、2020年3月に保健省の承認を得ました。今後ベトナムの看護師は、本教材を使って各病院で臨床研修を受講し免

許を取得することになります。プロジェクトが確立した研修制度によって、新卒看護師の能力が一定のものとなり、看護ケアの質が高まっていくことが期待されます。

\* <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/038/index.html>

「新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト」のFacebookでも取り上げられました（越語）：

<https://www.facebook.com/NewNurseVietnam/>



脆弱性への対応

ハノイの中心を流れるトーリック川の水質の向上に期待！

## 円借款「ハノイ市エンサ下水道整備事業」起工式を開催



JICA ベトナム事務所 清水所長 挨拶

5月18日、JICAの支援するハノイ市エンサ下水道整備事業の管渠パッケージのうち、パッケージ2（トーリック川沿い）、パッケージ3（ルー川沿い）の起工式展が開催されました。

PMU(ベトナム国ハノイ市人民委員会傘下 Water Supply, Sewerage and Environment Construction Investment Project Management Unit) グエン・ヴァン・フン局長は、「パッケージ2は、最大のパッケ

ージであり、約21kmの遮集管と主要な下水管を建設し、トーリック川に放流する下水を処理場へ搬送する事業である」と述べました。

また、JICAベトナム事務所清水所長は「JICAは90年代からハノイ市の下水・排水システムの向上を支援。本事業では過去の事業の成果を継承し湖や川の状況、都市部の水・衛生環境の更なる改善を目指す。パッケージ2はトーリック川の周辺の環境と公衆衛生改善への貢献が期待されている」と述べたほか、「Covid-19の影響下、全4つのパッケージの建設が順調に進んでいる」とPMUのリーダーシップに感謝を示し工事関係者を激励しました。また、工事安全や環境に配慮ながら請負業者の方々にもサポートを行って円滑に事業を実施してほしい、と協力を要請しました。



その他

## 2018年度内部事後評価 ベトナム事務所が最優秀拠点として表彰！



JICA ベトナム事務所での表彰の様子

JICAでは毎年、過去の事業から得られる学びを通して、事業の更なる改善を図り、事業評価の結果を関係者の方々に適時に公開することを目的とし、事業の内部評価を行っています。この評価は、在外事務所の2億円～10億円の事業を対象とし、事業終了後3年までに行われます。ベトナム事務所においても、毎年約10件の評価を行っています。

2018年度はベトナム事務所が内部評価の最優秀拠

点として表彰されました。代表して、評価を担当したスタッフ4名のコメントを紹介します。

#### ◆マイ・アインさん

(2018年度ベトナム事務所内部評価のリーダー：内部評価の取りまとめ、新しく内部評価に加わったスタッフをサポート)

内部事後評価に新しく加わるメンバーには「チャレンジングであり、面白く、多くの事を学ぶことができる作業である」と、よく伝えています。

主に実施中の事業のマネジメントに関わっている所員は、内部事後評価を行うことで、終了した事業を異なる角度から見るができるようになります。また、実施中の事業については、期待される成果と目的を、期日通り実施することに、注力できるようになります。

内部事後評価は、事業終了時に達成した成果と目的が、数年後も維持されているかを確認する機会です。そして、その評価結果から、現在実施中の事業と将来の事業にどのような変化を与えられるかを考えることができます。自立的に事後評価をすることは、最初は難しいですが、長期的には能力向上に結びつくものです。実施手順を計画し、関連機関と連絡を取り、現地調査や面談を行い、収集した情報を評価結果表にまとめる能力を身に付けることができます。

#### ◆タインさん

事後評価への2回目の参加だったのもあり、今年はこの業務に、より親しむことができました。すべ

での事業で同じモニタリング・フレームワークを共有しているため、技術協力だけでなく円借款についても理解することができ、事業形成について、より深く理解することが出来ました。

評価者の視点を加えることで、事業マネジメントにおける見識を深めることができ、他の業務でも大変役立っています。事後評価から学んだ教訓を、将来のプロジェクト形成に活かしていきます。

#### ◆ホアン・ガンさん

当事務所が事後評価最優秀賞を受賞したことを大変光栄に思います。ベトナム事務所には常に率先して新しいスタッフに知識と経験を共有してくれる、経験豊富なチームがあり、そのサポートのおかげで、自信を持って内部評価を行うことができました。この評価業務を通じて、更に JICA 事業の質を高めていきたいと思っています。

#### ◆キム・チさん

カウンターパートに対して、アンケートや電話、直接面談を行いました。JICA の支援が自分たちの能力開発に貢献している」と、感謝の言葉を多く頂くことができました。これらを通じて、JICA 事業が現場で役立てられていること実感しました。また、カウンターパートが抱える課題と、事業終了後にそれをどのように課題を克服してきたかも、理解することができました。

評価業務を通じて、短期間で一つの事業立案から終了までの全体像を把握することができ、また、持続可能な開発目標 (SDGs) を実施中の事業でどのように捉えるかを学ぶことができました。

## Voice of Expert 専門家便り

### ベトナムの新型コロナウイルスを憂いている内に、自分が隔離されてしまいました、の巻

社内報「コロナに負けない！笑顔をつなげよう」企画に「ベトナムにおける治療成功維持のための'Bench to beside system'構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト」専門家 今井淳一さんの記事が掲載されました。

プロジェクトのカウンターパートであるベトナム国立熱帯病病院が、ベトナムにおける新型コロナウイルス対策最前線と言う立場を担っており、プロジェクトの内容が HIV/AIDS 対策という PDM なので直接の支援はできないものの、その奮闘ぶりに自分もベトナムの新型コロナウイルスについては色々見聞きしていました。それ程病気自体を恐れているわけではなく、正しい予防行動に努めていれば大丈夫、と思っていたら、何と突然自分が「隔離」されることになってしまいました…。

#### 【突然同居の伯母さんが病院での集中隔離に…】

他の JICA プロジェクトの方と夕食をして帰ってきた3月某日の夜、カウンターパートのお医者さんから「今井さんの住んでいるところで新型コロナウイルス感染者が出たらしい」よとメッセージが。その夜から急に周りがバタバタし出したのですが、翌日になり「ありや、それは大変、買い出しに行かなきゃいけないかなあ」なんて言っているその内に、小生の妻（ベトナム人）の親戚で子供の世話を手伝うためほぼ同居している伯母さんが、その患者さんと「エレベーターで居合わせた」ということで、そこ

から2週間、病院で集中隔離されることとなってしまいました。「ええっ？知人でもないし、話もしていないのに、それだけで！？」と思いましたが、それだけで隔離でした。密閉空間、だからでしょうか…。まあ何とも厳格な…。

そして突然伯母さんは病院に連れていかれることになります。「なんで私が！」と納得できない伯母さん、まあその気持ちはよくわかります、ですが医療関係者もそれこそ大変で、政府方針を実行するのみですから、伯母さんもやむを得ずと救急車に乗ることになりました。でも、その隔離先での生活は食べ物もきちんと出してくれて安心できる環境だったとのこと、結果としては落ち着いて（というか観念して）期間を過ごしました。



叔母さんが救急車に乗っている様子

### 【そして我が家も「隔離」…】

伯母さんが感染者と「接触した」ということで、伯母さんは「F1」、そして我が家全員が「F2」となり、2週間家から出てはいけないことになりました…。誓約書にサインし「隔離中のルールに従います」ということになって以降、朝夕に毎日体温を測るようお達しがありました。初日に我が家に来た防護服装備完璧な方々は「坊」（Phường；ベトナム都市部の一番小さな行政単位）の医療センターの人でした。ベトナムでは感染者が増え始めた3月の当時、多くの人がこうやって隔離されていたのでしようが、土日もなく体温測りに来るのもさぞ大変でしょう、お疲れ様です。と思っていましたが、初日の朝しか来ず（苦笑）、体温は自己申告になりました。隔離者が増えた中で、それはしょうがないですよ。

そして、我が家には写真のような食料が支給されました（家族5人分）。その後も定期的に野菜など配給があり、かなり手厚い待遇だなと感謝。移動の制限こそありますが、とりあえずの生活の心配はありませんでした。最初は「もしかしたら、外国人だからくれたのかなか？」と思ったらそうではなかったみたいで、感染者の発生により突然隔離される人たちにはこういった食料が配られるそうでした。海外からの入国・帰国などの結果、「自宅待機要請」による自宅隔離の場合は支援が必ずしもない

ようで、そちらの方がむしろ大変かもしれません。とはいえ、随分手厚いなあとは感じました。



配給された食料

ただふと気づくと、塩素消毒の強いにおいがドアの隙間から漂います。ドアをチャッと開けてみると、外は消毒液で真っ白、いわゆる「公営プール」の臭いがプンプン。これはたまらないと、ドアの隙間をガムテープで埋めました。仕方がないとはいえ、やはり何かバイ菌扱いされている感じがヒシヒシとして「感染症（疑い）で偏見持たれるってこういうところから始まるんだろなあ」と、色々考えさせられる思いです。HIV/AIDSに今も根強く残る偏見にもつながるものを感じました。

その後は一歩も外に出ず、運動不足にならないように、日々ラジオ体操と筋肉体操、そして痩せると話題のハンドクラップダンス動画に合わせて踊りながら、2週間を過ごしました。中2と小2双子の息子三人にとってはストレスのたまる2週間だったでしょうが、元気に乗り越えてくれたのは何よりです。



消毒液を撒かれて白くなった家の前の廊下

### 【隔離されてみて考えた、ベトナムの感染症対策の迫力】

青天の霹靂で「出禁」を指示され2週間、3月27日ようやく隔離を終えました。と思ったのですが、その頃にはハノイ始め大都市では店がバタバタ

と営業を停止し始め、そして4月1日からは全国が「社会隔離」、いわゆるソフト・ロックダウン状態になってしまい、またもやほぼ外に出られない（食料品買い物等はOK）と言う状況になりました。それがハノイで緩和される4月23日まで、結局何だかんだ1か月半くらいを家の中ばかりで過ごすということになりました。



多くの店が営業を停止しているハノイ

当初は、「何でもまた自分が…」という気持ちにはなりませんが、そう思っている内に周りのベトナム人でも「あの人が、この人が」と次々隔離されていく徹底ぶり。学校はまだ感染者少ない1月末のテト旧正月明けからずーっと休校（全国的には5月になりようやく再開）。感染者が出た地域によっては街や村ごと隔離するような措置もなされ、住民は反対しないのかなと思いきや、政府の「これは戦時である」という宣伝も効いてか、基本的には皆しっかりとその隔離措置に従っていました。大都市を除いては必ずしも医療体制が良いところばかりではないベトナムで、「病院で食い止めるのではなく、ここ（地域）で食い止めなければ」というのは、政府も国民も意見が一致したのかもしれませんが。

6月3日現在のベトナムのCOVID-19の現状は患者数328名（治療中30名、治癒298名）、死亡者0です。国内の市中感染は40日以上0を更新中です。

## Voice of Expert Volunteer OB・OG 便り

日本政府観光局（JNTO）ハノイ事務所所長 高橋 歩さん（平成12年1次隊・観光業）

2000年7月から2003年7月まで、ホーチミン市文化芸術短大の文化観光学科に、職種「観光業」で講師として派遣されていました。高橋です。帰国後、現在所属するJNTOに入構しました。2017年2月から、ハノイ事務所の開設に合わせて赴任し、3年が経りました。

私とベトナムを繋ぐキーワードは「初めて」と「縁（Duyên）」です。



隊員時代の写真。学生のガイド実習に同行した時の思い出です。

学生時代に初めて一人旅の舞台として選んだこの地に、初の観光業の隊員として赴任しました。旅行会社で働いていたものの、教師経験もなく、授業をベトナム語でできるようになるまでは大変な苦勞の連続でした。他の隊員がはつらつと活動する中、教壇に立つことができない自分の無力さを感じる毎日でした。そんな私に学生と一緒に講義に参加するこ

とを許してくれた上司、観光業の専門用語の説明をしてくれ、今では大親友となったカウンターパートのお二人には本当に感謝しています。結局、教壇に立ったのは派遣から1年近く経ってからでした。2年後、「まだ恩返しができているので帰れない」と思い、JICAさんに相談し、1年延長が認められた初の隊員になりました。3年目は他の学科の授業も担当させてもらい、本当に充実していました。任期を終えて帰国する時は、暫くベトナムとはお別れかな、とっていました。

人生何が起こるか分からないもので、帰国から約10年後、日本が外国人観光客誘致のターゲットとしてベトナムを加えた2012年、私はバンコクに赴任し、ベトナム市場の事業を立ち上げました。一旦帰国したもののベトナムとの縁は切れず、ベトナムに事務所を開設する際に、初代所長に任命されました。私の「初めて」と「Duyên」が結晶した瞬間でした。

赴任直後から、私は隊員時代に散々苦しんだベトナム語にとっても助けられています。私に美しい言語であるベトナム語との貴重な縁をくださった先生にも感謝しています（ベトナム語の「Duyên」には「魅力」という意味もあります）。自分にとって第二の故郷となったこの国との「Duyên」を大切にしたい、二つの国を「観光」を通じて繋いでいきたいと思っています。



旅行フェアでの JNTO のブース。訪日旅行促進のための活動をしています。

最後に、日本に一時帰国中の隊員の皆さん。ベトナムへの想いを募らせていると思います。大丈夫。すぐに戻るは無理でも、「Duyên」を信じている人には、いつか必ずまたベトナムが人生に現れます。ベトナムと皆さんはずっと一緒です。Chúc sức khỏe và hẹn gặp lại!



JNTO は JICA と同じビル の 4 階 です。Facebook のファン登録、よろしくお祈いします！ (@camnhanhatban)



## ベトナムの草の根技術協力事業あれこれ



ドン・ホア・ヒエップ村の洋館群の中で最古となるソアット氏宅

ベトナムの商都ホーチミン市から車で揺られること2時間、メコンデルタの東側に位置するティエンザン省カイバー郡、メコン河から派生する水路、ヤシの木畑が広がる中にドン・ホア・ヒエップ村があります。同村には約200年前に建築された家屋が昔そのままに残されており、年間100万人にもおよぶメコン川クルーズツアー観光客は、しばし同村を訪れ、古のベトナム建築、またそこに住む人々の生活に触れ合います。この観光資源の開発には、JICAの草の根技術協力事業が活用されました。

JICA 草の根技術協力事業「ヘリテージ・ツーリズムによる持続的な地域振興プロジェクト」\*1は、昭和女子大学国際文化研究所の協力により、2011年4月に始まりました。2014年4月までの3年間、ティエンザン省を含む全国3か所、地域資源を活かした観光開発が進められ、伝統家屋の保全やそこに住む人々の組織化が進められました。その結果、2016

年、上述のドン・ホア・ヒエップ村の伝統家屋が国家文化財に指定されるなど、地域資源の価値が見直されると共に、同地域を一大観光地に成長させました。こうした実績は高い評価を受けており、2019年11月には JICA や昭和女子大学等の関係団体が省の人民委員会に表彰されました（2019年12月の月報参照\*2）。



ティエンザン省人民委員長からの表彰

草の根技術協力は2002年より創設された事業で、JICAの中でも比較的新しいスキームです。ベトナムでの案件はとて多く、2020年5月時点、延べ143件、現在も32件の事業が実施されています。また、協力分野も、上述した観光開発に加え、保健医療、農業、産業人材育成等、多岐に渡ります。日本のNGO、大学、地方自治体等からの事業提案を基本としているため、各案件、取り組みも非常にユニークです。これまでの取り組みを、ここで幾つか紹介しましょう。

\*1 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie\\_14.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie_14.html)

\*2 2019年12月月報 P.6 <https://www.jica.go.jp/vietnam/office/others/ku57pq00000g86de-att/monthly1912.pdf>

● 香川らしい国際協力プロジェクト「ベトナムハイフォン市における生活習慣病対策のモデル事業構築プログラム」(2016年3月～2019年3月)\*3/香川県

ベトナムでは子供の肥満が社会問題になっています。この事業では、小学校の給食の盛り付け方を改善して適切な栄養量を管理したり、体操を取り入れて運動量を増やしたりと、生活習慣病予防に向けた啓発活動や健康教育の充実に取り組みました。



きちんと盛り付けされた給食

● 「高齢化対策としての介護予防事業の支援」(2017年11月～2020年10月)\*4/社会福祉法人やすらぎ福祉会

高齢化を迎えるベトナム社会、高齢者が病院に頼ることなく健康を保つことが望まれます。この事業では、「転ばない体操」を含む介護予防プログラムの導入を図りました。対象の地域では、お年寄りが毎朝公民館に集まり体操を続けています。



地域住民による「転ばない体操」のデモンストレーション

● 「ハノイ地区における従業員満足度・職場環境改善プロジェクト」(2016年5月～2018年4月)\*5/公益財団法人日本生産性本部

ベトナムでは労使関係の悪化によって操業の停止を余儀なくされる工場が多くあります。この事業では、工場で働く従業員の満足度調査を実施しました。また、満足度向上や職場環境の改善から生産性

\*3 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/tokubetsu/vie\\_23.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/tokubetsu/vie_23.html)  
 \*4 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/shien/vie\\_13.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/shien/vie_13.html)  
 \*5 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie\\_24.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie_24.html)  
 \*6 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/tokubetsu/vie\\_24.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/tokubetsu/vie_24.html)  
 \*7 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/tokubetsu/vie\\_27.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/tokubetsu/vie_27.html)

向上を目指すとともに、その企業の価値を高めていくという取り組みを行いました。



専門家による現場での直接指導

● 「ホイアン市「エコシティ」実現支援プロジェクト」(2016年3月～2019年3月)\*6/沖縄リサイクル運動市民の会

ベトナムのごみ処理場はひっ迫しています。今や世界中から観光客が訪れるホイアン市もその例外ではありません。この事業では、家庭ゴミの分別や改修方法を改善、飲食店から出る生ごみのリサイクルなども推進しました。



ごみを分別・回収・計量する作業とその作業を実施するための資機材

事業を通じて作成した「ごみ白書」

2020年6月現在、世界はCOVID-19の影響の真ただ中にあります。幸いなことに、当地ベトナムは感染拡大の防止に成功しており、社会も落ち着きを取り戻しつつあります。他方で、未だ海外からの渡航者は制限されており、JICA草の根技術協力事業でも、日本からの専門家の渡航や日本での研修の多くが延期を余儀なくされています。

そうした中で明るいニュースもあります。福島県立医科大学が実施する「ベトナム南部における科学的根拠に基づく患者中心の保健医療サービス向上」プロジェクト(2017年3月～2020年2月)\*7では、ベトナム側の人材が中心となって、COVID-19の感染予防のための調査を行い、感染第二波の抑制に貢献

しています。また、中部学院大学がダナンで実施する「ダナン市・グハンソン地区の地区病院を中心とする老年ケア・プログラム定着と人材育成事業」（2018年7月～2021年10月）\*8は、5月18日より今ベトナムに居るメンバーが中心となって活動を再開しました。今後は老年ケアに向けてのマニュアル作成のため、ワークショップなども行われる予定です。

\*8 [https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie\\_25.html](https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/vie_25.html)

\*9 <https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/index.html>

近い将来、COVID - 19の影響を脱却し、New Normalの中でもベトナムでの草の根技術協力事業\*9が益々発展していくことを願っております。

JICA ベトナム事務所  
草の根技術協力事業 担当次長  
小林龍太郎

★JICA ベトナム事務所では JICA 海外協力隊や JICA 事業など、Facebook に週に2回程度投稿しています。5月～6月の人気記事はシニア海外協力隊 泉 安佐さん（職種：日本語教育）の【一時帰国中も変わらず】。QRコードからご覧いただけます！



JICAベトナム事務所では、本報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、vt\_oso\_rep@jica.go.jpまでお送り下さい。

Website <https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> (日・越・英)

Facebook <https://www.facebook.com/jicavietnam> (越)

発行：JICAベトナム事務所 広報班